

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価（3月30日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ①学校のミッションや生徒の実態、ニーズに即した魅力と特色づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努める。 ③持続可能な社会の造り手として必要な資質・能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新教育課程の実施に伴い、生徒のニーズ及び選択科目の設定等に関して学校教育目標との整合を検証する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、共生社会の実現を目指して全ての生徒に対してインクルーシブな取組を構築する。 ③研究授業や教員相互の授業観察を推奨し、生徒の主体的な取組を模索できる機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒による授業評価の結果や進路結果、選択科目履修者数から生徒のニーズを把握する。 ②全校生徒対象の講演会及び教員対象のインクルーシブ講演会を実施する。 ③研究授業や教員相互の授業観察を推奨し、生徒の主体的な取組を模索できる機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒による授業評価や魅力特色アンケートは、肯定的な意見であったか。 ②講演会のアンケート結果は、肯定的な意見であったか。講演会の内容は、授業や生徒対応に反映できたか。 ③生徒による授業評価の結果に対する取り組み状況は、適切であったか。教員相互の授業観察や研究授業を行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒のニーズに対応した教育課程を検討し、令和8年度から実施できるように改定した。 ②全校生徒対象の講演会及び教員対象のインクルーシブ講演会を実施し、アンケート結果は概ね良好であった。 ③研究授業や教員相互の授業観察を行うことで、ICTの有効活用や生徒が主体的に取り組む授業を多彩に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①令和8年度以降、3年経過を目途に教育課程が適切であるか、検討する。 ②教科等横断的な取組が増え、生徒がより主体的に行動できるようになることが課題である。 ③令和7年度より導入される電子黒板の授業における有効活用が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①令和8年度からの生徒のニーズに対応した教育課程に大いに期待する。生徒の自己実現に向けたサポートにも重点を置いて欲しい。また、授業改善について、学校全体で取組んで欲しい。 ②インクルーシブ教育実践推進校としての取組みをさらに推進し、生徒の主体的な学習活動への取組をより一層図って欲しい。 ③ICTを活用した授業展開により、生徒の興味・関心をさらに高め、自ら学びに取組むという意欲を醸成して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒や保護者に対して、教育課程や選択科目について説明会を開催して分かりやすく行う。また、学校教育目標や生徒のニーズについては常に把握する必要がある。 ②インクルーシブ教育実践推進校として6年目を迎えるにあたり、共生社会実現に向けた生徒・教職員の意識の向上に継続して取組む。 ③教科・科目内で共通的なICT利活用を行う等、組織的な取り組みを継続する。
2	生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ①他者を思いやり、尊重できる自立した生徒、自らの夢や目標に向かって果敢にチャレンジできる生徒、心身ともに健やかで、逞しい生徒の育成を図る。 ②規律と秩序のある生徒指導。きめ細かい支援を確立し、一人ひとりが正しい道徳観や社会性を醸成できるような体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小集団によるリーダーの育成と活用を目指し、委員会活動や部活動の活性化を進める。 ②学校行事には、多様性を重視しながら取り組める仕組みづくりを構築し、インクルージョンの意識向上を図る。 ③交通に関する学校（教師・生徒）と保護者、地域が連携できる交流機会を模索する。 ④組織的な教育相談とSC、SSWとの連携および家庭との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各委員会では生徒主体の取組を推進し、集団による事業推進と問題解決を図る機会を提供する。 ②各行事では、他学年との交流を図り、多様性を意識できる仕組みを構築する。 ③交通に関する学校（教師・生徒）と保護者、地域が連携できる交流機会を模索する。 ④組織的な教育相談とSC、SSWとの連携および家庭との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各委員会では、生徒自ら考えた企画を一つでも行うことができたか。 ②他学年と交流ができる行事を行うことができたか。 ③3者による交流機会が提供できたか。 ④SCやSSW、さらに外部機関と家庭との連携ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①委員会内では事業推進に関するアンケートの実施や意見交換を活発に行うことができた。 ②学校行事（体育祭・文化祭・クラスマッチ等）における各委員会の役割分担及び連携をスムーズに行うことができた。体育館耐震補強工事に伴い、使用場所の工夫やインクルージョン的な意識向上改革を進めることができた。クラスマッチでは、新種目の設置を行うことができた。 ③自転車通学者への県民の方からの意見は減少したが、ヘルメット着用率が低いので、対策が必要である。公共交通機関におけるマナー向上が十分でなかった。3者による意見交換の場の設定ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①意見集約の方法をアンケートと全体会での場のハイブリッド方式で行えるようにする。 ②イベント時だけでなく、日常の学校生活の中で、各自の役割や責任、個の違いを尊重できる交流の場を設置する。 ③交通道德については、保護者や地域の力を借りながら生徒の意識を変えていくことが必要であり、生徒会生徒ともタイアップするなどして、自転車ヘルメット着用率の向上を図りたい。 ④支援が必要な生徒に関しては、早期の情報共有とともに、教育相談、SC・SSWや専門機関と連携し、課題解決を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「自分たちの学校を自分たちでつくっていく」「誰にとっても居心地の良い、学びやすい学校づくりを自分たちの手で進めていく」といった生徒主体の活動をさらに推進して欲しい。 ②広く社会に关心を持ち、同時に社会生活に必要なルールやマナーをきちんと身に付けるとともに、様々な学校生活の場面で他者を思いやる心の育成を図って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運営委員会、委員長会、部長会を中心として、生徒が自ら考え、意見交換し、策を練って実施する活動をさらに充実させる。 ②学校生活の様々な場面において社会生活に必要なルールやマナーについて触れ、搖るぎない霧高生の育成に取組む。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりがより良い進路選択ができるような能力の育成、および生徒・保護者等に対して適切な内容と量の情報を受け取れるような機会の充実を図る。	①生徒自らが適切な進路選択を行えるよう総合的な探究の時間の内容をさらに深化させ、自己実現に向けた計画的な取組を推進する。 ②保護者等を対象とした説明会を充実させ、保護者等と連携した進路指導を推進する。 ③資格検定試験の成果を進路選択にいかした指導を構築する。	①生徒自らが適切な進路選択を行えるよう進路先との交流機会を増やし、総合的な探究の時間での進路計画の充実を図る。 ②保護者等を対象とした説明会を増やし、生徒・保護者等の進路計画の理解を深める。 ③デジタルサイネージ等を活用し、資格検定試験の広報を充実させ、生徒のチャレンジ意識を向上させ、自己肯定感を高める。	①前年度と比較して、進路先の説明会や交流会の機会を増やすことができたか。 ②保護者等を対象とした説明会を開催し、生徒と保護者等をつなげられる機会を提供できたか。 ③デジタルサイネージ等を活用した広報を行うことができたか。	①各学年で、総合的な探究の時間のプログラムに上級学校による講演会を年に2回実施し、それぞれねらいを持って生徒に取り組ませることができた。 ②夏季休業中の説明会だけでなく、保護者対象の説明会の機会をとらえて、より深い進路理解を促せるよう図っていく。 ③広報を充実させるだけでなく、合格者を増やすことができるよう、英語科と協力する方策を検討する。 ④実用英語技能検定にチャレンジする生徒数は昨年に比べ減少したが準2級の合格率は上昇した。	①事前学習と振り返りを充実させ、生徒にとってより意義のある講演会にするような工夫をする。 ②保護者を対象とした進路講演会を継続するとともに、卒業生による体験報告会の実施を検討して欲しい。 ③英検等の資格・検定試験の合格率の向上に向け、当該教科との連携を図るとともに生徒の英語学習方法の確立に取り組んで欲しい。	①生徒自らが適切な進路選択ができるよう総合的な探究の時間を中心としたプログラムを立案し、実行して欲しい。 ②保護者を対象とした説明会について継続して欲しい。 ③生徒や保護者等に向けて適切に進路情報を発信することができた。 ④英検等の資格・検定試験は一定の成果をあげられた。合格率の向上へ向けて取り組みを進めることがある。	①総合的な探究の時間を充実させ生徒自らが適切な進路選択ができる仕組づくりを目指す。 ②保護者等を対象とした説明会について継続的に取組み、進路選択に関する理解を深化させる。 ③英語科と連携し資格・検定試験の合格率向上や英語学習方法の確立に努める。	
4	地域等との協働	①地域との交流や協働、地域貢献等を通じて、地域と共に学校づくりに取り組む。 ②在校生や保護者等地域社会に対して、本校の教育活動についての理解を深めてもらうための情報発信を行う。	①霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用し、地域との交流・連携事業で生徒による広報活動の推進を図る。 ②デジタルサイネージを活用して生徒に本校の魅力を校内発信し、生徒自らが霧高の魅力を発信できる仕組みを構築する。 ③ホームページの迅速な更新により、保護者や地域の方々からの情報伝達を図る。	①全公立展や学校説明会等、校外での広報機会では、霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用できたり、生徒による広報活動の機会提供と新たな広報グッズの作成により霧コンシェルジュ等の登録者数増加を目指す。 ②デジタルサイネージでは、情報発信とともに部活動結果や行事の様子などを発信し、霧高の魅力を生徒に伝える。 ③学校行事や部活動等、霧高の魅力的な部分はホームページに掲載し、迅速な更新により魅力的なホームページによる閲覧数の増加を図る。	①全公立展や学校説明会では、霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用できたり、新たなグッズを作成し、登録者数増加に向けて周知できたか。 ②デジタルサイネージで霧高の魅力を発信することができたか。 ③ホームページでは、学校行事や部活動等の発信ができたか。また、新たな霧高の魅力発信ができたか。	①霧コンシェルジュについては全公立展では積極的に広報活動を行い、学校説明会では司会・行事説明・動画出演・校舎案内担当と中心的な活躍を見せた。事前準備においても従事し、広報に大いに貢献した。また、広報物品としては霧コンシェルジュ用キヤップと横断幕を作成し、体育館を使用しない説明会の新たなスタイルを構築した。 ②デジタルサイネージは定着し、掲載コンテンツも部活動・行事・試験情報・日常的な連絡事項・図書関係等多岐に渡る。学校説明会でも来校者の注目を集めた。 ③ホームページについては部活動や霧高祭・修学旅行等の行事風景、説明会関係の情報更新ができた。	①霧コンシェルジュの活躍の場面を工夫・増加させるとともに、メンバー内で内容をブラッシュアップさせ、新たなメンバーに対しても生徒間で情報共有できるような組織的な発展を目指す。また、説明会での登場場面の増加や、動画コンテンツの作成等にも携われるよう推進する。 ②令和6年度は、デジタルサイネージ導入元年として様々な試みを行った。今後は掲載コンテンツの工夫や活用方法自体の検討を行っていきたい。 ③ホームページについては体裁の抜本的見直しを行うとともに部活動関係を中心に更新頻度を上げる仕組づくりを検討する。	①霧コンシェルジュの活躍について、大いに評価する。例えば、生徒が学校説明会の企画検討段階から携わるなど、自らの体験に基づいた取組について検討して欲しい。 ②デジタルサイネージの活用について、強力に推進して欲しい。ホームページの更新頻度や掲載内容の検討について積極的に取組んで欲しい。 ③地域への情報発信とともに、地域の様々な団体との協働により、地域に根付いた学校となつて欲しい。	①霧コンシェルジュの活動内容についてさらに充実させ、霧コンシェルジュ登録者増について具体的な方策を検討押する。 ②デジタルサイネージやホームページによる学校広報活動を積極的に行うとともに、地域に根付き、地域から愛される学校づくりに取組む必要がある。	
5	学校管理 学校運営	①保護者・地域から信頼され、生徒が安心して学べる安全で快適な学校づくりを行う。 ②自他の命を尊重し、大きな災害にも対応できる高い防災意識を育む。 ③不祥事や事故を未然に防止する職場環境づくりを行う。 ④不祥事・事故防止に向け、働きやすい職場環境を整備する。	①生徒と教師間の人間関係を構築するため、学校運営協議会を活用してインクルージョンな学校環境を整備する。 ②体育館の耐震工事に伴い、行事等が円滑に進めることができるよう安全配慮に努める。 ③防災訓練により自他の命(いのち)を尊重する意識と、迅速な行動ができる体制を構築する。 ④不祥事・事故防止に向け、働きやすい職場環境を整備する。	①学校運営協議会ではインクルージョンな環境整備に係る意見集約ができる。 ②学校行事等では、関係グループと連携し、施設利用の柔軟な対応を検討する。 ③防災訓練後には、生徒から意見を収集し、訓練においての意識を把握する。 ④職場環境の整備に関して職員からの意見を収集し、その反映を検討する。	①学校運営協議会では、インクルーシブな環境整備に係る意見集約ができる。 ②学校行事等で関係するグループとの連携が図れたか。 ③防災訓練後に生徒からの意見を集約した。訓練参加により防災意識が高まった。 ④毎月の衛生委員会を通して職場環境の整備に関する教職員からの意見を収集し、産業医からの助言に基づいた職場環境の改善策について基本的な構想をまとめることができた。	①体育祭・文化祭・卒業式等を、関係グループや学年と連携して円滑に実施することができた。 ②防災訓練後に生徒からの意見を図ることが課題である。 ③毎月の衛生委員会を通して職場環境の整備に関する教職員からの意見を収集し、産業医からの助言に基づいた職場環境の改善策について基本的な構想をまとめることができた。	①関係グループや学年との連携を恒常的に行っていくことが課題である。 ②防災意識のさらなる向上を図ることが課題である。 ③毎月の衛生委員会を通して職場環境の整備に関する教職員からの意見を収集し、産業医からの助言に基づいた職場環境の改善策について基本的な構想をまとめることができた。	①生徒が安心して学校生活を送るために、日頃から生徒と教員の間に良好なコミュニケーションに基づく深い信頼関係を築いておくことが必要である。 ②学校防災計画について地域との連携を視野に入れた立案や訓練の実施について検討を開始して欲しい。 ③職場環境の改善について、さらに取り組んで欲しい。	①社会で必要なコミュニケーションスキルを高め、生徒と教職員間の良好な人間関係を作ることができた。 ②自他の命を尊重し、災害発生時に適切な行動がとれるよう地域との連携を視野に学校防災計画の立案や訓練の実施を検討する必要がある。 ③オフィス改善事業を推進し職場環境の改善に取組む。	①自他ともに大切にしコミュニケーション能力の高い生徒を育成する。 ②災害時の危険を認識し、自他の命を尊重し、災害発生や事後には進んで他の人々や地域の安全に役立つことができるよう体制の構築について検討する。 ③教職員からの意見を反映させ職場環境の改善に取組む。